

当院における新型コロナウイルス検査の取り組みについて

—PCRセンターを開設して—

◎楠木まり¹⁾、佐藤 伊都子¹⁾、岡崎 葉子¹⁾、東口 佳苗¹⁾、今西 孝充¹⁾、矢野 嘉彦¹⁾
国立大学法人 神戸大学医学部附属病院¹⁾

【背景】

新型コロナウイルス感染症は、最初に感染が確認されてから丸2年が経過しようとしている現在もなお感染拡大を繰り返しており、今後の感染状況に注目が集まっている。また、「正しい検査は正しい検体採取から」を目的に、臨床検査技師等に関する法律が一部改正され、現在「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」修了者は6万人となった。

【当院での取り組み】

当院では、2020年1月より検査部が中心となり、新型コロナウイルスの検査体制を構築してきた。

2020年12月、当院敷地内にある立体駐車場1階の駐車スペース8台分を利用し、検体採取(鼻咽頭ぬぐい液、唾液)ブースおよび検査受付、検査室、簡易診察室、患者待合を兼ね備えたPCRセンターを開設した。検査受付、検査室、簡易診察室は屋内に設置し、検査室、簡易診察室は陰圧個室とした。検体採取ブースと患者待合は屋外に設置し、前者は2ブース、後者は同時に最大4名まで待機できるようにした。PCRセンターは平日9:00~16:00、事務員1名、

臨床検査技師1名が常駐し、鼻咽頭ぬぐい液採取は中学生未満の小児を除き、臨床検査技師が担当している。PCRセンター開設以前は、院内の各診療科の数少ない限られた陰圧個室で、各主治医が必要な个人防护具(personal protective equipment:PPE)を着脱し、かつ次の患者の検体採取を実施するまでに換気する時間が必要であったが、PCRセンターでは、常駐する臨床検査技師が、屋外で検体採取を行うことで、PPEの消費削減、および換気不要であるため、より効率のよい検査が実現可能となった。また、新型コロナウイルス抗原、インフルエンザウイルス抗原検査はPCRセンター内の検査室で即実施、PCR検査は院内の遺伝子検査室へ速やかに搬送し、随時測定している。

開設後1年間で、鼻咽頭採取は1134件、唾液受取・採取は6796件の実績であった。このように、臨床検査技師が検体採取から測定、結果報告まで終始関わることで、迅速かつ精度の高い検査の提供に貢献している。PCRセンター開設準備から現在に至るまでの当院での取り組みについて紹介する。

連絡先 078-382-6314